

## 第 32 回岩手県食の安全安心委員会議事録

### 1 開催日時及び場所

令和 6 年 2 月 7 日（水）10 時 40 分から 11 時 55 分 盛岡市総合福祉センター 4 階 講堂

### 2 出席者の氏名

#### (1) 委員

小山田緑委員、菊地セツ子委員、山口真樹委員、吉田敏恵委員、井口一三委員、後藤和彦委員、佐藤圭委員、高橋輝委員、梁川真一委員、及川純一委員、笹田怜子委員、佐藤至委員、平澤和樹委員、山崎朗子委員

#### (2) 関係室課等

堀川勇復興危機管理室主任、千葉哲也防災課主査、内藤皓平学事振興課主事、川又康明環境保全課主査、吉田幸司資源循環推進課主査、佐々木透若者女性協働同推進室主査、梁田尚美健康国保課主任主査、清水稔子産業経済交流課主査、林尻雄大流通課主任主査、渡辺琴乃流通課主事、高橋良学農業振興課特命課長（鳥獣対策）、内田愛美農業普及技術課主査農業普及員、阿部結農業普及技術課技師、氏橋明子農産園芸課主任主査、佐藤裕夫畜産課主査、阿部瑛水産振興課技師、粒來幸次保健体育課主幹兼保健体育担当課長、菅原史子保健体育課指導主事、高橋省一生涯学習文化財課主任社会教育主事

佐藤直人環境保健研究センター保健科学部長、千葉和久環境保健研究センター衛生科学部長、稲川多佳子県民生活センター主任主査

#### (3) 事務局

福田直環境生活部長、小國大作環境生活部副部長、佐藤義房県民くらしの安全課総括課長、千葉正食の安全安心課長、遠藤裕美主任主査、白沢明美主査、小野寺秀宣主査、晴山久美子主査、鈴木裕子主任

### 3 議事の概要

#### (1) 開会

#### (2) あいさつ

福田直環境生活部長があいさつを述べた。

#### (3) 委員紹介

事務局より委員の紹介を行った。

#### (4) 議事

##### ア 委員長及び副委員長の選任について

佐藤至委員が委員長に、笹田怜子委員が副委員長に選任された。

##### イ 食の安全安心の確保に係る令和 5 年度の取組状況と令和 6 年度の取組方向について

##### ①岩手県食の安全安心推進計画

事務局から、資料1により説明があった。

**【質問・意見等】**

- **吉田敏恵委員** 16 ページ、取組 NO. 51 について、遺伝子組換え食品の 6 検体の検査を実施しているとのことだが、遺伝子組み換え食品の何を検査しているか。もう一点、私は気候変動に消費者・生活者として関心があるが、気候変動することで温度や海水温が上がって新たな毒が出るやカビが発生する等、人体に関係するようなものが出てきそうな気がする。それにより食への不安が出ると思うが、そのあたりはどの項目でチェックをするようにしているか。気候変動の関係が書かれたところがあるか。
- **千葉正食の安全安心課長** 遺伝子組換え食品は、具体的には大豆の分析をしており、遺伝子組み換えのものが入っているかどうかを調べている。また、気候変動の影響は、気温だけでなく、例えば取れる魚の種類や繁殖しなかった細菌が繁殖する可能性があるなど、様々な影響があろうかと思う。それに特化した取り組みはないが、それぞれ各部署の取組の中で、気候変動の影響も考慮しながら取組内容として検討を進める必要があると考えている。
- **佐藤至委員長** 今の遺伝子組換え食品の説明は、本来遺伝子組換えでないはずのものに、遺伝子組み換え食品が入っていないかどうかを確認しているということか。
- **千葉正食の安全安心課長** はい。遺伝子組み換え食品でないものに、混入がないことを確認するためのもの。
- **後藤和彦委員** 取組内容が盛りだくさんで、職員も仕事が増える一方で大変ではないかと思う。やらないことを選ぶことも必要な時期に来ているのではないか。JGAP は、東京オリンピック前は、取り組まないとオリンピックで食品提供できない等があったが、その後は JGAP について騒いでいない。JGAP はそもそも日本のようなクオリティの高い国ではない国で、「生産物はこのように製造している」という証明のような取組と認識している。そろそろ手を抜いてもよいというか、整理する時期に来ているのではないかと考えている。吉田委員が言うように、新しいことに対応する必要が出てくる可能性も高まっていることから、検討すべきではないかと考えている。
- **佐藤裕夫畜産課主査** 委員のおっしゃるとおり GAP 等はオリンピックの際に話題になった対応だが、昨今の畜産農家は飼料高騰でひっ迫する中、JGAP や農場 HACCP 取得に力を注いでいる余裕もない事業者も多い中、頑張っ取り組む事業者を支援していく形で現在実施している。いただいたご意見を参考に今後の対応について検討していきたい。
- **千葉正食の安全安心課長** その他の分野についても、委員ご提案のとおり、力を入れなければいけないところに力を入れられるよう、業務の方向性について検討していきたい。
- **佐藤至委員長** 様々取組がある中、出前講座だけ若干目標に達していないということだが、そのほかは概ね順調に進んでいるということで、引き続き取り組みをお願いしたい。

## ②岩手県食育推進計画

事務局から、資料2により説明があった。

### 【質問・意見等】

- **小山田委員** 29 ページ、取組 NO. 23 のところ。皮膚カロテノイドの測定は、どういう方に対して行ったのかお聞きしたい。先ほども大学生に意見を聞くという項目があったが、大学生、特に自炊の方は、野菜をちゃんと食べているのかなと思うので、そういう若い人向けにこのカロテノイドチェックをやってみたらいいのではないかと思う。
- **千葉正食の安全安心課長** 当該事業を実施している健康国保課は、業務の都合で出席が叶わず、具体的な対象はこの場では答えられないが、当課が主催している食育推進県民大会や来年度も実施予定の学生の意見を聞くための会であるなど、機会を捉えて、委員のご提案のあった若い方の野菜の摂取量を把握するような事業を検討したいと考えている。
- **菊地セツ子委員** 今お尋ねのベジメータについては、県食生活改善推進員団体連絡協議会の事業として、33 市町村の団体協議会のうち 10 協議会で実施した。ベジメータは、左手の中指を機器のレンズに乗せて蓋をし 10～20 秒、緑黄色野菜摂取量を測る。2 週間前から 1 カ月前の食べた状態が反映されるもの。助成金を使って、10 協議会で実施した。対象者はすべての年齢層を対象とし、例えば私の住む遠野市では、健康福祉の里で 60～70 名の市職員を測定。ほかにも、会議でいらしていた一般市民、検診のために集まっていた若いお父さんお母さんにも測定していただいた。また、食品を扱う場所である風の丘や産直、高齢者の集会場所等、地域住民では小学生から若い家族連れなど、あらゆる人を対象に測った。A～E ランクが付いていて、ある程度食べていたら数値的に示されるもの。相手に結果を示して、結果を受けてどうしたらいいかと聞かれたらレシピを提示したり、分かりやすく緑黄色野菜の現物を見せ「緑黄色野菜はこういうものだから、これを食べたら数値が上がるよ」などとアドバイスした。食べていたのに低かった方にはがっかりして終わらないように「こういう野菜もたべなきゃいけない」などの意識付けをした。今までの活動では、全体的に 1 日 70g 程度と少ない結果が出たので、来年度も継続し、3 年くらい続けることを考えている。測定した方には大変好評だった。数値をもとに改善に向けた話ができるので、1 年後の測定が楽しみである。
- **平澤和樹委員** そもそもベジメータを取り上げた理由、設定根拠があれば教えてほしい。食育推進計画を見ていたが、背景的なところで野菜不足が県の栄養課題として最重要課題として特段掲載されていないようにある中、ベジメータを取り上げた理由があればお聞かせいただきたい。
- **千葉正食の安全安心課長** 担当課に確認の上、委員に回答する。

### ※ 健康国保課からの後日回答

○食育推進計画では、本県の健康課題である肥満や生活習慣病予防にむけて、食塩の過剰摂取や野菜の摂取不足など栄養の偏りを無くした望ましい食生活の形成、定着に取り組む

こととしています。

- 委員の御指摘にありましたように、本計画にはベジメータを取り上げた理由となる野菜不足の課題や具体的取組みの記述はありませんが、参考指標としている「主食・主菜・副菜をほとんど毎日揃えて食べる者」の割合が減少していること、また、県の健康増進計画「第2次健康いわて21プラン」の関連指標として野菜摂取量が減少していることから、望ましい食生活の形成・定着のために野菜摂取量を増加させることは県の栄養課題と捉えております。

今回、ベジメータを活用した取組みは、県民に分かりやすい食生活改善のツールとして活用でき、食育推進計画及び健康いわて21プラン双方の計画を推進するため有効と考え、取組を進めたものです。

- **平澤和樹委員** 計画を読んでいると、「減塩」が課題として取り上げられている中、ナトカリ比（ナトリウム/カリウム比）を簡単に測定できる機械があるので、そういうものの方がマッチしているのではないかと思う。また、食の安全安心計画とも関わるが、希望郷いわてモニターアンケートの中で、「食品の購入に当たって不安を感じますか」というアンケートを取っているが、半数の方が「不安を感じている」と回答していて、実際に対策としてやっている内容は県民に向けて実施しているのか、送り手に対して実施しているのかが気になった。どちらかという送り手側にいろいろ講座を開催しているのではないかと思うが、受け手型にアンケートを実施した時、どれだけ効果があるのかが気になったので、その辺を整理して結果をまとめるといいと思う。
- **千葉正食の安全安心課長** アンケート結果は、県民くらしの安全課で開催するリスクコミュニケーションの開催の参考にさせていただいている。リスクコミュニケーションのテーマは、アンケートの結果を反映させている。また、リスクコミュニケーション実施の対象者だが、集まっていた方は一般県民であり、講座型はそこから情報発信していただく方も想定している。そういう方々に集まっていたらリスクコミュニケーションをすることで、県民の理解を深めるとともに、情報発信者の養成も兼ねている。
- **平澤和樹委員** ありがとうございます。3点目、傾向として気になったのが、人に対してアプローチに偏っているような印象があり、今後環境的なアプローチを考えていくのが気になった。特に、減塩は今後個人の努力では目標の到達が望めないと学術的には言われていて、だからこそ国では環境的に整えていこうとしていて、「無意識の減塩」とか、スーパーに協力いただき食塩を減らしたそうざいを作ったりしている。そういった内容が今後取り入れられるのか知りたく、今の考えがあればお聞かせいただきたい。
- **千葉正食の安全安心課長** 減塩については取組NO.20が、今委員がお話いただいた、スーパーと連携して取り組んで減塩の弁当を作り、減塩とうたわずに販売し、知らず知らずのうちに減塩になるというもの。これを来年度は協力いただいたスーパーだけでなく、それ以外の事業者を巻き込んで、横展開を図っていく予定としている。他の施策についても、環境へのアプローチについて、進めていけるようにしていきたい。

- **平澤和樹委員** ありがとうございます。そういう方向に行くと、より個人的な要因だけでなく、環境要因からもよい選択が得られると思うので拡充して行ってほしい。最後の質問だが、様々な取組のアウトカム評価は、計画に位置付けられている主要評価に結びつく形となるか。70近い取組がどのように整理され、有機的につながって最終的なアウトカムにいつているのか、モデルというかフレームワークみたいなものに当てはめて整理されているのかが、気になった。主要評価項目がものすごく少なくて、これだけ様々な取組をやって、それが本当にアウトカムに影響するのか、その前の比較評価とか経過評価で止まって、その先に本当につながっているのかが気になった。よく公衆栄養だと、プリシード・プレシードモデルに当てはめて枠組みで評価しているが、枠組みを使って定義されているのかが気になった。もし分かれば教えてほしい。
- **千葉正食の安全安心課長** ご意見ありがとうございます。食育推進あるいは食の安全安心推進計画は、指標を「主要指標」「参考指標」として設定している。それぞれの取組を達成することにより、指標が達成され、最終目標が達成できるような構造・つながりとなっている。また、それぞれの部署の取組については、計画の中で明記されていないものもあるが、その事業毎に「活動指標」「成果指標」を設けて取り組んでおり、取組を進めることで、目標を達成できるような仕組みづくりを行っているところ。
- **平澤和樹委員** 分かりました。次の時には、評価の御報告もあるということなので、できるだけ中間評価や影響評価のレベルで報告があると嬉しい。もう一点だけよろしいでしょうか。「食育」という言葉の定義ですが、「食育に取り組んでいる」の「食育」とはどのへんの範囲を指しているのか、ぜひ共通認識を図りたい。栄養教育と食育ってどう違って、食育でどこの守備範囲として教えているのか、伝えているのか、志しているのかをお聞きしたい。
- **千葉正食の安全安心課長** 食育と一口で言っても、かなり広い分野・方面があり、その食育の中で4つの柱をたてて、その中で目標値をそれぞれ立てて取組を構築している。
- **平澤和樹委員** 4つの枠組みに分けて広くカバーされているという認識なのですね。分かりました。どうしても栄養教育と食育が同一に思われてしまって、栄養主義的というか、そういう側面が強く、「食を営む力」ということが抜けがちでやられたりしていることも多く、確かに4番目の施策だと関わっているなということが分かりました。広くカバーできていることが確認できた。ありがとうございました。
- **小山田委員** 34 ページのところに、「34 災害発生に対応した食の安全安心の確保」の項目がある。今回能登半島の大規模地震もあったので気になっている。避難所等においてある災害時の食料の備蓄には、アレルギーに配慮した食品も配置されているのか。最近、子供たちのアレルギーはすごく多く、前であったら小麦、卵、牛乳等であったが、最近ではナッツや果物等、すごく多岐にわたっていて、避難所に行ったら食べられるものがないという話を聞いたことがある。アレルギー配慮食品が配備されているか、教えてほしい。
- **千葉哲也防災課主査** 備蓄については、アレルギーの対応としてリスクツッキーに置き

換えるよう取り組んでいる。

- **千葉正食の安全安心課長** 東日本大震災の際も、実際にそのアレルギー用の備蓄食品が足りなくて困ったというような声も上がっていると認識しているので、その経験を踏まえて、今後そのような傾向が進んでいくものと思う。

#### ウ 令和6年度岩手県食品衛生監視指導計画（案）について

事務局から、資料3により説明があった。

##### 【質問・意見等】

- **高橋輝委員** 意見ではないが、課題のところにある県産小麦については、私どもの方で販売した小麦で皆様に多大なるご迷惑とご心配をおかけし、心からお詫び申し上げます。基準値を超過した小麦は、関係製粉事業者や関連業界団体と連携し、回収・撤去に取り組んでいる。現時点の回収状況については、出荷した玄麦は404tだが、原料等も含めて400tほど回収されている。このようなことが二度と起こらないように、県の指導を受けて再発防止策を徹底し、安全な小麦の供給・生産を図りたい。この度は申し訳ありませんでした。
- **佐藤圭委員** 食中毒予防対策のところでお伺いしたい。飲食店からの食品の持ち帰りについて、令和元年食品ロスの削減の推進に関する法律で、飲食店から持ち帰りが試行的に行われているが、県として食ロスの削減の状況について教えてほしい。
- **吉田幸司資源循環推進課主査** 当課では、食品ロスの削減に向けて、ドギーバック（持ち帰りバッグ）のサンプル提供などに取り組んでいる。食品ロス削減の一つの手法として、持ち帰りは有効であると考えている。一方で、食中毒予防等もあるので、生ものはだめなど、持ち帰る品目はお店で判断して実施していただいているものと考えている。
- **佐藤至委員長** 令和6年度監視指導計画については、パブコメはいつから実施か。
- **千葉正食の安全安心課長** 2月16日から1か月間を予定している。

#### エ その他

- **吉田敏恵委員** 食育はたくさんの項目があり、特に子供たち、小学生、中学生、高校生の健全な食習慣を形成させるために様々な施策をしているのは、本当にすごいと思う。ただ、いろんな家庭が増え、「家庭の食をもっとこうしましょう」と言われてもなかなかそういう環境にない子どもは多い。あるいは貧困格差が進んでおり、学校給食でご飯がきちんと食べられることは、すごく大事なことだと思っている。ただ、食材が上がったりなどして、給食が今まで週5日間あったのを4日間に減らして1日お弁当にする学校があったりとか、週5日間提供するが食材の質を少し落とす等しないととても月5～6千円の給食費では対応できないなどがあり、理想がある割には厳しい実態が今、起こっているのではないかなど、感じている。なので、食を大事に、実際にバランスよい食生活を子供たちにもというのであれば、学校給食はとても大事なんだという認識はより強く持っていただき、

個人に頼るのではなく、環境を作っていくことをもう少し強めなくてはいけないのではないかと思う。給食の質の向上であったり、より広範な子供たちにちゃんと給食を食べさせるというのが、今から大事なのではないかと考えており、意見として述べたもの。

- **粒來幸次主幹兼保健体育担当課長** ご意見ありがとうございます。学校給食については、子どもたちの食育を進めるためにも重要なものですし、栄養素や食べる種類等についても、学校給食を通じて学んでいる子供たちが多いという状況です。学校給食費についても、食材の確保や調理方法をすごく工夫してやっているなど、調理者が大変苦慮しているという声も聞こえています。また国の方では学校給食費の無償化に向けた検討も進められているところで、給食費の無償化の動きも、動向を見極めていく必要がある。学校給食の重要性は認識していますので、しっかりとした給食を提供できるような給食費の在り方についても、検討が必要だと考えています。

## (5) 閉会